

2014 三重大学教育GP申請

カリキュラムの体系化に関する取組

平成26～27年度 教養教育

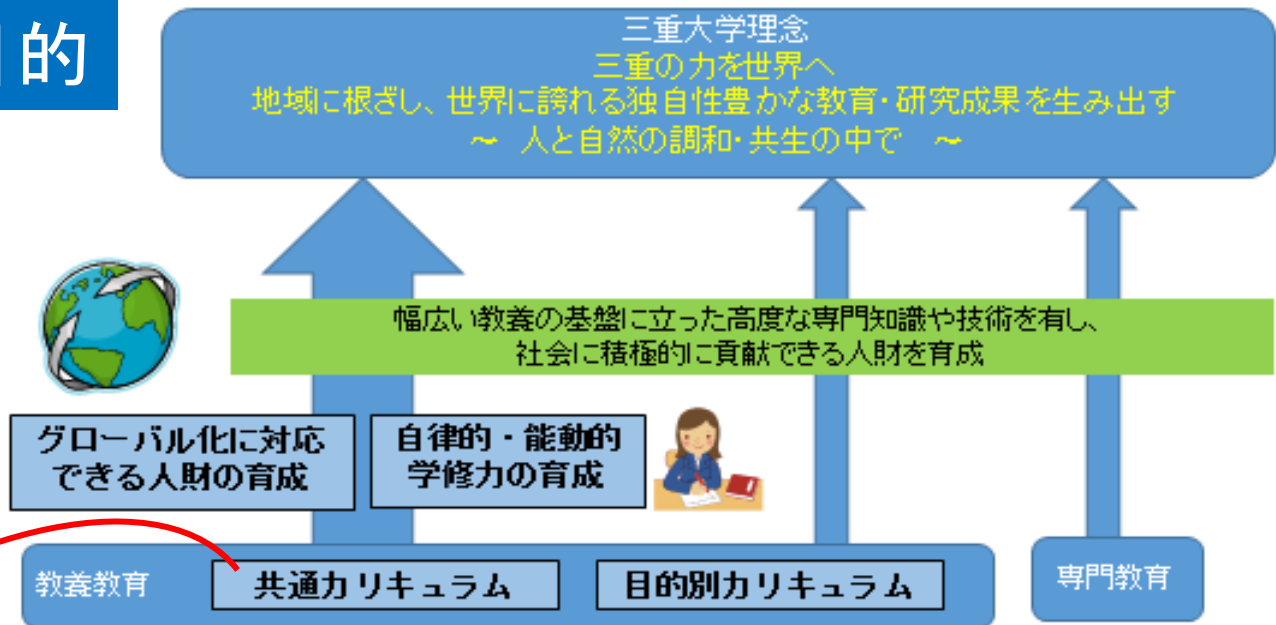
アクティブ・ラーニング科目の 体系化に関する取組

申請代表者

教養教育機構 准教授

太城 康良

(1) 取組の趣旨・目的



アクティブ・ラーニング科目

スタートアップセミナー

「聞く」「話す」

グループワーク、プレゼンを主体とした授業

「4つの力」スタートアップセミナー

平成21年度：開講

＋ 教養ワークショップ

「読む」「書く」

新書(論説文)を読み書評(論説文)を書く授業

平成24年度：企画・内容の構想

平成25年度：設置準備室内での準備

平成26年度：試行、機構内での準備

平成27年度：開講

新規に開講される教養ワークショップをより良いものとして確立し、
スタートアップセミナーと関連付け、アクティブ・ラーニング科目を体系化する

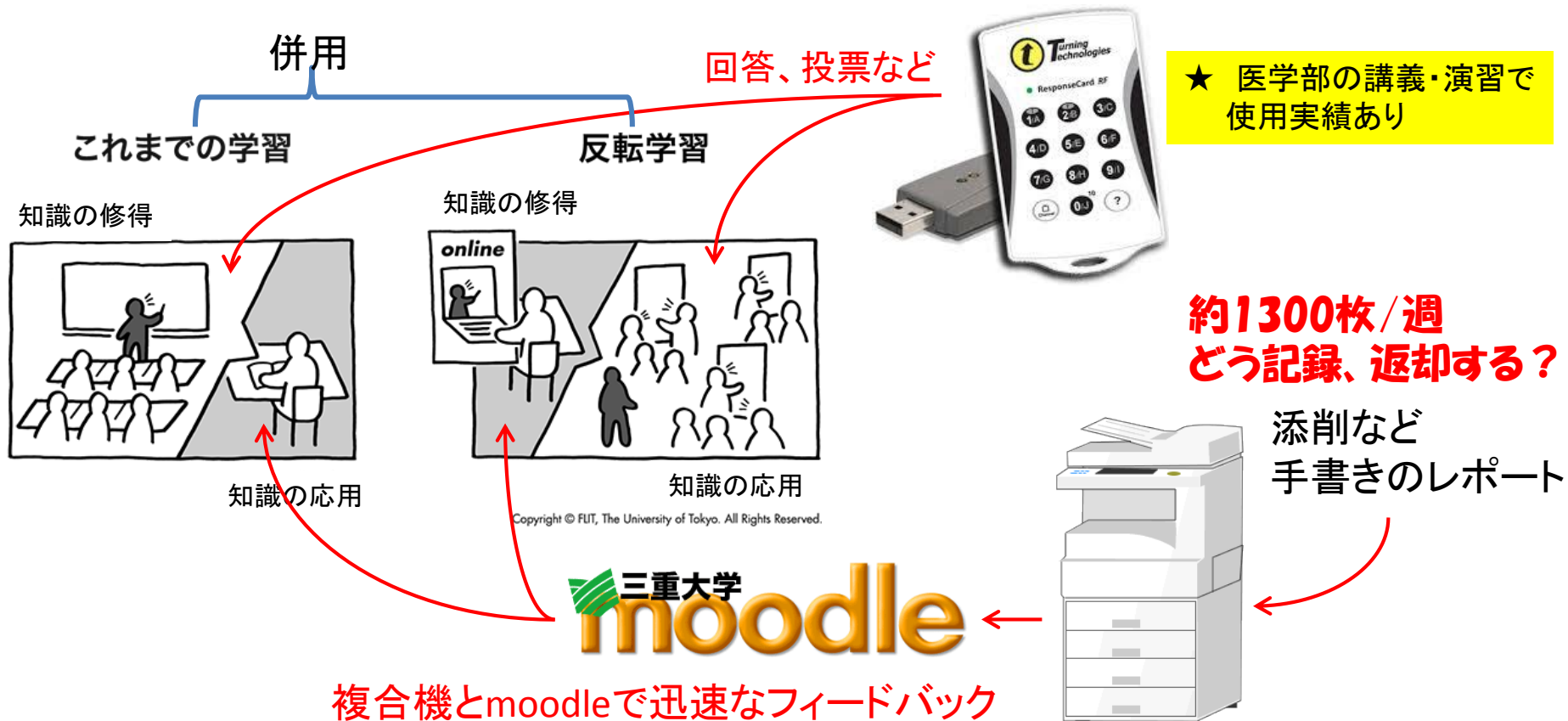
(2) 取組の到達目標

- ① 授業形態を検討し、現実的かつ効果的な教材とシラバスを作成する。
- ② グループワークなどでの自律的・能動的な学習行動を反映させた成績評価を確立する。
- ③ アクティブ・ラーニング科目の担当者間での情報共有を促進する。
- ④ アクティブ・ラーニング科目の理念や授業方法をFDとして学内に、教育分野の研究として学外に発信する。

(3) 取組の具体的内容・実施体制

① 授業形態を検討し、現実的かつ効果的な教材とシラバスを作成する。

授業形態は無線回答機などを用いて双方性を重視し、演習やグループワークを取り入れ、一部Moodleで事前に教材を提示し、反転授業の要素を導入も検討する。平成26年度に試行的に開講した時のノウハウを精査し、現実的かつ効果的な教材とシラバスを作成する。



複合機とmoodleで迅速なフィードバック

★ 学長補佐(情報担当) 奥村先生に医学部での納品・導入、立会済

省力化

- ✓フィードバックにかかる時間の削減
- ✓採点に関わる教員の工数削減

- ・手書きの出席票による出欠確認
- ・テスト・レポートのソート、集計時間の短縮
- ・点数転記ミスおよびチェック漏削減

増力化

- ✓きめ細かいフィードバックにより授業の質の向上
 - ・タイムリーなフィードバックによる学生のモチベーション向上
 - ・教員のLMS利用者拡大による授業の質の向上
 - ・紙・電子の学習成果はLMSに一元化可能

Before



After



② グループワークなどでの自律的・能動的な学習行動を反映させた成績評価を確立する。

筆記試験、レポート、出席・課題提出の状況は客観的に数値化できるが、アクティブ・ラーニングで最も重要視される学習姿勢やグループ学習への参加の様子を、教員が一人で評価することは容易ではない。解決の一つとして学生が互いに学習行動を評価するピア評価を組み込んだ成績評価を検討する。



1クラス(30~40名)
5~6グループ学習の
学習姿勢を1名の教員で把握し、
評価することは困難。

2

グループ学習への貢献【必須】

授業中のグループ学習において

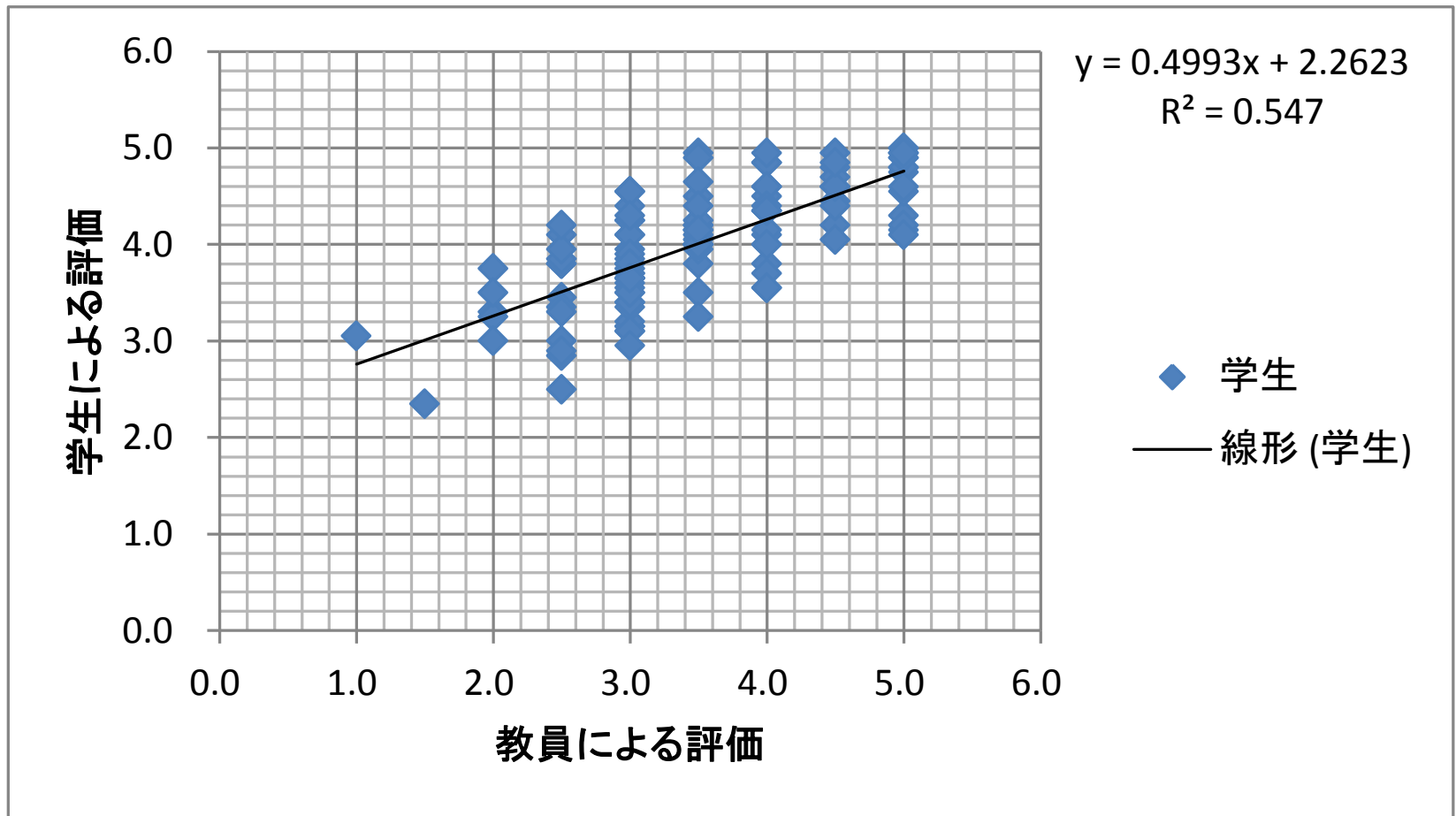
- 司会、発表者、書記の役割を果たしているか
- 自分の意見を班員に積極的に提示しているか
- 班員の意見も尊重し、丁寧な議論を行っているか
- 班員の質問や疑問に対して、的確に答えているか
- タイムリーに議論が深まる情報や新たな論点を提供しているか
- 議論の内容をまとめたり解説したりして、班員の知識・思考の共有を促しているか など

グループ学習への貢献度を総合的に判断して、10段階で評価してください。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
314025	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
314082	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
314083	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
414162	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
114079	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
414168	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
214176	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Moodle 上での「学生間評価(ピア評価)」を、目下、試行中

学生と教員の評価は一致する傾向にある



★ 医学部のPBLチュートリアルでの結果
(2014.6.13の1回分)他の回でも同様

③ アクティブ・ラーニング科目の担当者間での 情報共有を促進する。

教養ワークショップが全学必修(約1300名対象)で開講される場合、1クラス30～40名として45コマの授業を教養教育機構の教員(15名+特任教員5名)で担当することになる。新たに教養ワークショップの企画・運営を担当する専任教員(年俸制)を27年度から雇用できるように役員会と協議する予定である。その教員を中心として、複数名の担当教員の指導内容の質を保証・標準化するための定期的な報告会・連絡会を開催し、マニュアルを整備する。既存のSUSの担当教員の打合せに、教養ワークショップ担当の教員も参加する。

「4つの力」スタートアップセミナー、ミーティング

中島、長濱、下村、守山、高山、山田
+(中西、綾野)

教養ワークショップ試行

綾野、井口、杉崎、野田、太城

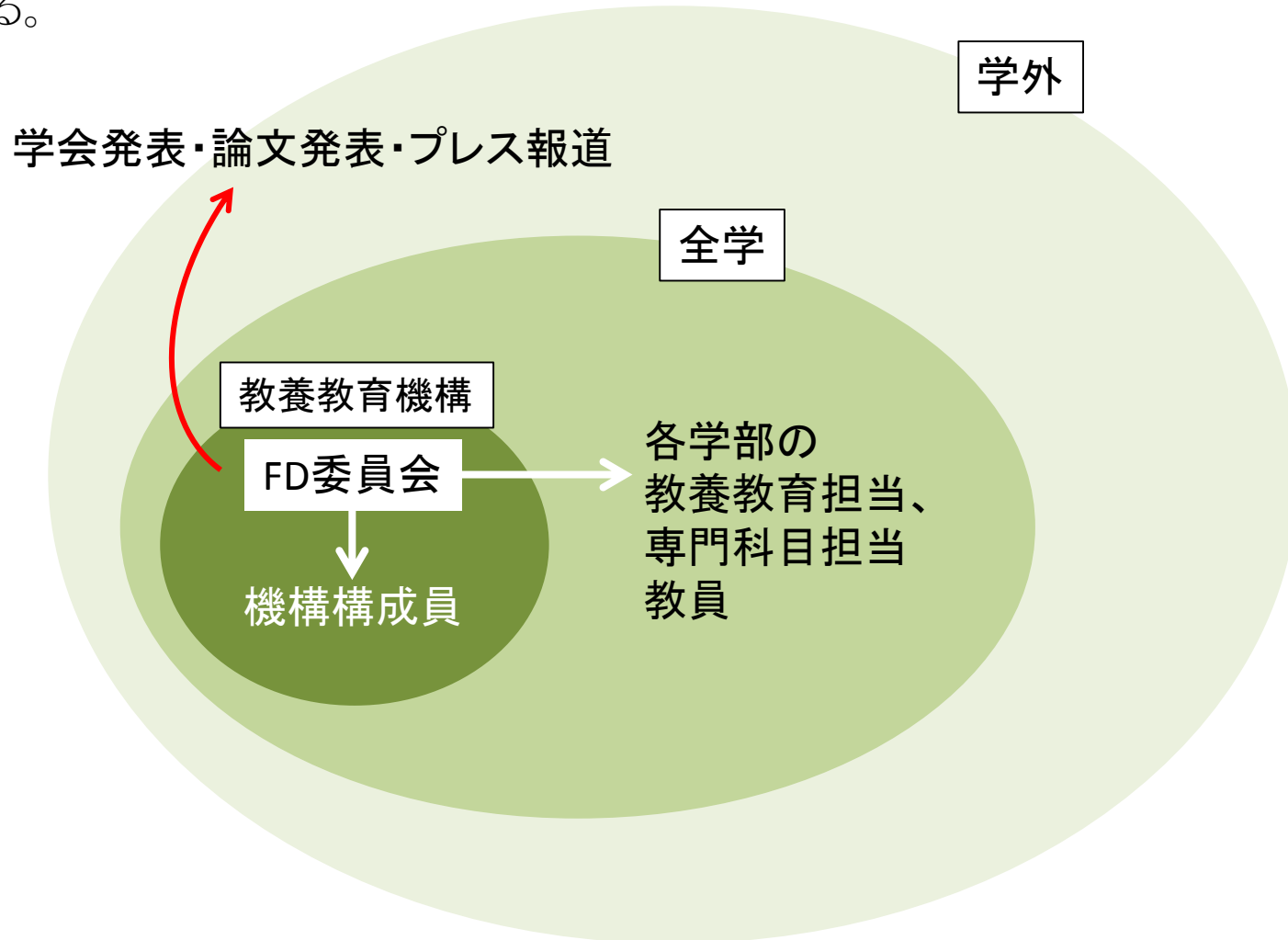
教養ワークショップ担当教員(予定)

教養教育機構の教員(15名)+特任教員(5名)

専任教員(採用予定)を加え、
2つの授業内、授業間での
情報共有を促進できる
ミーティングの体制を構築

④ アクティブ・ラーニング科目の理念や授業方法を FDとして学内に、教育分野の研究として学外に発信する。

教養養育機構のFD委員会と提携し、教養教育を担当する教員をはじめ、各学部の教員を対象とした全学FDを開催する。成果が上がれば、大学教育研究フォーラムなどで学外にも発信する。



(4) 取組の評価体制・評価方法・評価結果の反映

- 全般的に、教養教育機構の企画運営会議、教授会で報告・評価が可能である。
- 機構内のFD委員会や部門会議において、より詳細な討議を行うこともできる。
- ①、③の成果は教材やマニュアルという形として現れ、授業内容の成果は既存の「授業評価アンケート」により測ることができる。
- ①、②の成果は、④で発信することにより、質疑応答の中で評価方法の妥当性や授業効果など当該分野の専門家の意見を参考にすることができる。

(5) 取組の実施計画・実現可能性

実施計画

- フィード・バックをかけるため最低2カ年の連続性は必要。
- 平成26年度は①、②が中心に行い、平成27年度は③、④を中心に①の改善を継続。

実現可能性

- ①:5名の教員が試行を行っており、用いた教材や授業運営上の課題や解決法を共有し体系化するので、新規立ち上げよりも実現可能性は高い。
- ②は、医学部医学科でのPBLチュートリアル教育でのピア評価導入の実績があり、申請者が教養教育でも試行を行っている。
- ③のマニュアル化はある程度の時間が要するが、報告会・連絡会は関係者のスケジュール調整で比較的容易に実現できる。
- ④の学内への発信は教養教育機構のFD委員会の支援が期待でき、学会発表は総括として行う。